

「全国森林環境税」の創設に関する意見書

我が国の地球温暖化対策については、2020年度及び2020年以降の温室効果ガス削減目標が国際的に約束されているが、その達成のためには、とりわけ森林吸収源対策の推進が不可欠となっている。

しかしながら、森林が多く所在する山村地域の市町村においては、木材価格の低迷や林業従事者の高齢化・後継者不足に加え、急速な人口減少など、厳しい情勢にあるほか、市町村が、森林吸収源対策及び担い手の育成等山村対策に主体的に取り組むための恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

このような中、政府・与党は、「平成29年度税制改正大綱」において、「市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税（仮称）の創設に向けて、地方公共団体の意見も踏まえながら、具体的な仕組み等について総合的に検討し、平成30年度税制改正において結論を得る」との方針を示したところである。

もとより、山村地域の市町村による森林吸収源対策の推進や安定した雇用の場の確保などの取り組みは、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や地方創生等にもつながるものであり、そのための市町村の財源の強化は喫緊の課題である。

よって、下記の制度創設について実現を強く求めるものである。

記

平成29年度税制改正大綱において、「市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税（仮称）の創設」に関し、「平成30年度税制改正において結論を得る」と明記されたことから、森林・林業・山村対策の抜本的強化を図るための「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年9月14日

和歌山県日高郡日高川町議会

（提出先）

内閣総理大臣・財務大臣・総務大臣・農林水産大臣・環境大臣・経済産業大臣・衆議院議長・参議院議長

委員会町内視察レポート

産建厚生常任委員会

視察実施日

平成29年7月25日

日高川町中津川

工期 平成27年10月1日～平成31年9月9日

延長 2706.5m

調査の経過と意見

【湯浅御坊道路 川辺第一トンネル工事】

トンネル工事は、主要線の西隣にある避難坑を

広げるような形で掘り進められている。万一、主要線で事故があった場合は、工事途中のトンネルを避難道として利用できるようにしている。山岳トンネルであり、特殊な

本町の玄関口である川辺インターチェンジのフルインターチェンジ化と湯浅御坊道路の4車線化が進んでいる。完成すれば今まで以上に本町発展の拠点となる。今回は、

工事全体の中でメインとなる川辺第一トンネル工事を視察した。まず、中津川にある事務所で説明を受けた。工事の概要は、

発注者 西日本高速道路株式会社

路株式会社

施工者 清水建設株式会社

請負金 42億1800万円

場所 広川町上津木

また、三次元自動測量計測およびデータ通信と

データベースをシステム化するにより人員の削減をしており、これほど大きな工事であるのに、常時トンネル内で働いているのは数名とのことであった。

この後、トンネルに入り、実際の工事を視察した。強力に送風を行なっているため、思ったほど空気の汚れは感じなかった。先端部におけるダイナマイト爆破も体験した。

質疑応答で、トンネル掘削時に出たヒ素についての説明もあった。今回のヒ素は、土壌溶出量基準（0.01mg/1L）の2.4倍、0.024mg/1Lである。基準超過の原因は自然由来と考えられ、元々が海で、その後、隆起した地質ではヒ素の出る場合もあると

質疑応答で、トンネル掘削時に出たヒ素についての説明もあった。今回のヒ素は、土壌溶出量基準（0.01mg/1L）の2.4倍、0.024mg/1Lである。基準超過の原因は自然由来と考えられ、元々が海で、その後、隆起した地質ではヒ素の出る場合もあると



のことである。対処方法として、岩を砕き、石の大きさが2mm以上はコーティングをし、中のヒ素が出ないようにし、川辺インターの盛土等に利用している。検査も行なっており、今のところヒ素の流出はなく、問題は出ていないとのことである。2mm以下のものは最終処分場で処理をしてい

る。ヒ素に関しては、工事終了後も検査を続ける必要性を感じた。

【美山支所庁舎現場調査】

美山支所庁舎は、昭和54年3月竣工から38年が経過し、執行部は建て替えの方針である。委員会として建て替えが妥当なのか、建て替えるとした

ら建設規模はどうかの参考としたく視察を行なった。

美山支所庁舎は耐震診断の結果、地震の振動および衝撃に対して倒壊、崩壊する危険性があるため、被害を防ぐための補強が必要であると診断されている。そして、現場を視察した結果、2階、3階の状況が特にひどく、2階の旧助役室、旧企画室等では天井が剥がれ雨漏りの跡がくっきりとわかる。3階は天井各所から雨漏りがしている。外部も各所でクラックが見受けられ危険な状況である。

このままの状態では支所を使用するのは危険であり、早期の対策を実行すべきである。

町長の諮問機関である「美山支所庁舎とその周辺整備検討会」の町に対しての答申では、「総合的に判断したところ、現美山支所庁舎は解体撤去

し、現敷地に支所機能として最小限必要なスペースを有した効率的な庁舎建設をする」ともに、周辺整備も含め整備すること

とは、やむを得ないのではないかという結論に至りました」と述べている。私たちが現地を視察した結果、その通りであると感じた。

【江川改良復旧事業】

江川は、以前から、少しでも大きな雨が降れば氾濫する川として、地域住民に多大な被害をもたらしてきた。平成27年7月16日から18日にかけての台風11号により、越水で堤防や護岸が複数箇所

で決壊し、床下浸水11戸、農地40haが浸水する被害が発生した。原形復旧する災害復旧のみでは事業効果が限定されることから、改良復旧事業の採択を受け、工事が進められている。その工事進捗状況を視察した。

事業内容は、事業箇所 江川河口から上流4.9km

事業期間 平成27年度～平成30年度

工事概要 河道拡幅・河道掘削・橋梁架け替え事業費、50億3500万円（内改良費28億2000万円）である。

現在、重機がたくさん入り、工事の真っ只中であり、2倍近くに川幅が広がる様子がよくわかった。川の流れがスムーズになるように川替える箇所もあり、完成すればかなりの改善が期待される。特に日高川と合流する河口は、日高川に逆流するかのような流れとなっており、水の吐けが悪くなり、被害を増大させていた。今回、この部分も改良し、日高川の流れに沿った河口となるように計画されている。

完成後の江川の様子を注意深く見守りたい。



第3回定例会も無事に終わりました。9月と言えば、6年前の大水害を思い出します。尊い人命が奪われ、甚大な被害を受けました。今では護岸等も復旧されていますが、一生忘れてはならない事です。今年の9月は大きな被害もなく過ぎました。ほっとしています。

この便りが皆さんの目に留まるのは11月です。米、栗、柿の収穫も終わり、米は豊作であったと聞き喜んでいきます。ウスイエンドウの播種は終わりましたか。真夏に摘果したみかんの収穫が残っています。業種を問わず高齢化が進んでいます。お身体には十分に気を付けて頑張ってください。よろしくお願いします。

(堀江才一)